



-2017年度提案資料-

1. これまでの活動（28年度）

2016年9月
飯盛研究会
夏合宿

2016年12月
第2回訪問
・葵の会、大多喜高校



2017年1月
第4回訪問
・若者会議参加



2016年10月
第1回訪問
・役場、釜屋、大多喜高校



2016年12月
第3回訪問
・第1回大多喜高校WS



2017年3月
第5回訪問
・若者会議WS



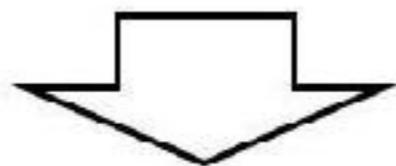
1. これまでの活動 (29年度)



2. 問題意識

原因

- ・ 地域に対する想いを持った人が**繋がれる場所**がない。
- ・ 高校生が町で活動した**経験(成功体験)**を積めていない
- ・ **地域の資源**を認識できていない。



結果

- ・ 若い人が都市部に流出してしまう。
- ・ 地域に対する当事者意識(**愛着**)が足りていない。

3. 目標

当事者意識を持った人同士が集まれる場作り

短期

地元の方と協力して
コミュニティの形成

中期

住民主体で
イベント開催
(企画～実行)

長期

地域に対する
想いをを持った人が
繋がれる場づくり

4. 大多喜元気プロジェクトの役割

① 住民の主体的活動のサポート

- ・まちづくりに関する知識や経験の提供
- ・実働面での支援
- ・のぎさんとの協力

② 持続的な地域づくりの基盤づくり

- ・イベント運営のノウハウの提供
- ・住民どうしのコミュニティづくり

5. 全体的なスケジュール

2018年度年間スケジュール		
月	活動内容	出張回数
4月	2018年度のご挨拶	1回以上
5月	--準備期間--	1回以上
6月	--準備期間--	1回以上
7月	釜屋の夏休み	4回以上
8月	釜屋の夏休み	4回以上
9月	スケジュール調整の会議	1回以上
10月	大多喜お城祭りへの参加	1回以上
11月	紅葉祭りへの参加	1回以上
12月	--準備期間--	1回以上
1月	--準備期間--	1回以上
2月	春のイベント	4回以上
3月	春イベント	4回以上

6. 企画① 「釜屋の夏休み」

- 住民の方、地域おこし協力隊の能城さん、慶應側がサポートとして、釜屋でのイベントを開催
- **概要**：釜屋を地域の集まる場にするため、夏休み期間（週に3日程度）フリースペースとして解放。本が読めたり、子ども向けに駄菓子など販売する。また、イベントやワークショップを開催し、集客にも力を入れる。
- **ターゲット**：大多喜在住の方、観光客
- **期間**：2018年7月1日～8月31日

6. 企画① 企画案一部抜粋

若者会議・新プロジェクト企画提案

釜屋の夏休み

作成日：平成30年2月24日 作成者：若者会議

今夏初開催した「大多喜子ども夏祭り」は、町内の子どもたちを中心に300人超の来場を記録し、大盛況のうちに終了しました。このイベントを企画・主催した「若者会議有志メンバー」は、並城おこし協力隊・釜屋里紗子を中心に集まった10代～40代の町民有志たちの集まり。目指すのは「町民による、町民のための、町内の遊び場づくり」です。

町民である私たちが大多喜町での暮らしそのものをますます自主的に楽しんでもゆくことが、町の課題である「観光客を増やす」「学生客を増やす」「若者の流出を防ぐ」ためにも有効な手段だと考えました。単発限定のイベントだけでなく、もっと日常的に町民同士が新たな関わりを作りながら、地域としてさらに発展していける場づくりをしたいと思い、コミュニティスペースを企画しました。

■事業提案までの経緯

昨年、町内在住・在勤の20代～40代までの若者を集め「若者会議」を計5回開催しました。地域の課題解決に向けてワークショップを重ねるとともに、会場であった「釜屋」を有効活用するための案も検討してきました。地域独自のオリジナルティとおもしろさを演出すべく、本多忠勝公の「本」の字をもらって「本+book」をテーマに、以下の案が立ちました。

- ① 大多喜町の歴史がわかるブックカフェにする
 - ② 大多喜町の写真を飾って観光客に見てもらい、ゆくゆくは町の魅力を集めた写真集を作成する
 - ③ 専門書を集め、興味のある人どうしが集まれる場所にする
 - ④ 今の図書館は子どもだけで行くには心配な場所にあるので、分館的な役割をもった施設にしたい
- 等の意見があげられました。これらを統合してできた案が本企画です。まずは試験的に営業をはじめ、地域住民および観光客双方の反応を仰ぎ、今後の展開を検討していきます。

■事業内容

町民からみを集めた誰でも自由に読めるライブラリーと、町内のイベント情報を一覧できる掲示板を設置。空間は市民家のよさを生かしたレトロな雰囲気演出。専大生とも協力し、地元町民/観光客それぞれに向けたイベントやワークショップを行うほか、**子ども向けに駄菓子の販売**、旅行客向けに爽夏はがきの販売も行う。営業案内等については、SNSおよびチラシにて情報発信をする。

■予定しているサービス/イベント/ワークショップ

- ① 自由に本を読むことができるスペースの提供（全営業日）
- ② 絵はがき販売、翌年の夏に贈送を行うサービス（全営業日）
- ③ 駄菓子の販売（全営業日）
- ④ 大多喜子ども夏まつり（8月26日）
- ⑤ 大多喜子ども夏まつり出展者によるワークショップ（月6回）
- ⑥ 1箱古本市（1回）
- ⑦ 慶應義塾大学大多喜元気プロジェクトによる守子屋（月4回）

■想定されるユーザー層

- ① 大多喜町民
- ② 大多喜町および近隣エリアに遊びにくる観光客（特にいすみ鉄道利用者）
- ③ 房総エリアへの移住に興味がある、もしくは検討している人
- ④ 町おこしや地域活性化などのカルチャーに興味がある人
- ⑤ 本好き、本屋好き

■ユーザーが釜屋に求めるもの

- ① 大多喜を楽しむための情報収集・相談ができる
- ② 地元住民同士、地元住民&観光客、観光客同士などの相互コミュニケーションができる
- ③ ゆったりとくつろいで心地よく滞在できる

■営業日/営業時間（予定）

兒童が夏休みとなる7月から8月の2カ月限定

毎週日曜日、火曜日、金曜日の週3日

13時～16時半オープン（ワークショップがある日は午前からも開けることも検討）

■スタッフの体制

若者会議および慶應義塾大学大多喜元気プロジェクトで交代制
人件費および運営資金は、ワークショップ等の売り上げで工面する
※イベント、及びワークショップがある日はスタッフが1人常駐
イベント、及びワークショップのない日はスタッフが2人常駐

7. 企画②「春のイベント」

- 企画①でご協力いただいた地域住民の方主催で、釜屋を使ったイベントの第二弾として開催
- **概要**：企画①に来て頂いた方を中心に、イベントの企画・運営を行う。イベントのテーマから当日の運営まで全て、地域住民主導で行ってもらう。当事者意識を持った人同士が集まれる場作りを実現させる。
- **ターゲット**：大多喜在住の方、外部の方
- **期間**：2018年2月～3月（未明）